花の苑タイムズ

令和6年10月15日発行
第121号
〒370-0002
高崎市日高町433-1
TEL：027-329-7211
社会福祉法人健生会
特別養護老人ホーム
高崎花の苑広報委員会

施設ご利用者が出品参加準備
新高尾文化祭（作品展）に向け

地域の文化祭・新高尾地区文化祭（作品展）に向けて高崎花の苑では、各ユニットの参加予定者をこのほど締め切り、主催者（新高尾地区地域づくり活動協議会）に対し、事前申し込み票を提出しました。

本番に向け着々と準備

各ユニットでは現在、十一月三日、四日開催の本番に向けて、各職員の協力のもと、参加予定の利用者様がそれぞれの作品製作に取り組み、準備を進めています。

第11回フォト作品展が終了
「施設で過ごすお年寄りの生活（くらし）」

質の高いサービスの提供で福祉社会を支える老人福祉施設の理解と、介護職の魅力を広く県民に伝える第11回『施設で過ごすお年寄りの生活（くらし）』フォト作品展がこのほど終了しました。

会場となったスマーク伊勢崎には、七日間の展示期間中、多くの来場者があり、施設で暮らす利用者と働く職員との絆を象徴するたくさんの笑顔の写真に見入っていました。高崎花の苑からは、二点の写真が展示されました。

高崎花の苑作品

くらしの風景（山口英子様）

穏やかな日は自室の机に向かい、趣味の書道に没頭する三号館に入居する山口英子様。

もともと書道を特別に学んだ経歴は無いと、本人の弁。しかし、自室に保管している作品の数々を拝見すると、その筆致のすばらしさに、思わずキャリアや経歴を聞いてみたくなるものだが、どうもそうではなさそう。

きっかけは十年程前。当施設と系列のデイサービスに通っていた頃、そこで同好の方たちと一緒に楽しく書道に励み、発表会があると積極的に参加していたとのこと。

以来、書道の世界にハマった山口様は、「書」と向き合うと『心が落ちつく』とし、できる限り日々の日課として取り組まれているようです。病と対峙する中、いつも穏やかな表情を崩さない山口様のそんな背景が分かったような気がします。

地域伝統行事に協力参加

新高尾地区文化祭は今回で三十九回目となる地域の伝統行事で、芸能発表部門が二日、作品発表部門が三、四日の二日間行われます。

高崎花の苑では、地域交流を重要な取り組みと位置づけ、以前より新高尾文化祭に参加し、住民の皆様との交流を図っています。

カメラスケッチ

展望花の丘のコスモスが見頃を迎えています。

雑感手帖

加藤　和昭

最近サブスクで介護を題材にした映画を二本観賞しました。何だか二本とも暗い話で気が沈んでしまいました。

障がい者施設を題材にした映画もありましたが、ちょっと紹介文を読んだだけで、もっと減入ることが予測できたので別途アニメにしました。中世ヨーロッパの天文学の話で大変面白く、毎週続きが楽しみです。

私も自分の年齢から、そのうち親の介護に携わるであろうと感じることが多くなりました。親にはなるべく好きにさせてやりたいですが、現時点でもいろいろ思案するところもあります。

専門家ですので、頭の中ではガイドラインのようなイメージがすぐに沸きます。ああなったらこうする、こうなったらこうする。今のうちにこうしておく、など。でも、本人の思いもありますので、簡単には割りきれないことも想像できます。

家族は本人への愛情、介護負担、介護サービスにかかる費用等の間で葛藤し、自らのＱＯＬも下げてしまうことが多い傾向にある気がします。それが介護の共倒れです。

私の親は、私に迷惑を掛けたくないと思っているような気がしますが、私が専門家なので安心しているとも考えられます。ちょっと早いですが、何があるかわかりませんので、元気なうちにエンドステージに向けてどのようにしたいのか、意思確認しておこうと思います。特に父親には嫌な顔されそうですけどね。

（施設長）

苑内研修「カスハラ対策」開く
（サービス向上委員会）

サービス向上委員会（渡邊直哉委員長）ではこのほど、一連のハラスメント対策研修の一環として、カスタマーハラスメント（カスハラ）に関する苑内研修を行いました。

ここでは、質の高いサービスを提供する上で不可欠な、働きやすい明るい職場環境を維持していくためには、カスハラを許容してはならないとの認識に立ち、カスハラ事例の理解とその対応策を学びました。

現在、カスハラについて定めた法律はなく、厚生労働省の指針により事業主としての責務として、①相談先を予め決め、従業員に周知しておく②相談担当者が適切に対応する③対応マニュアル作成や研修の実施等が上がっています。

委員会では今後さらに趣旨の徹底を図っていく意向です。

「健康フェスタ」を開催
イオン高崎で（日高病院）

日高病院（糖尿病サポートチーム）が主催する「健康フェスタ」が11月10日（日）、イオン高崎（二階）イオンホールで開催されます。世界糖尿病デー（11月14日）に合わせて行われるもので、群馬県糖尿病協会が共催し、高崎市が後援するものです。

当日は、健康測定と糖尿病無料相談会を実施する他、専門医（伴野医師）による特別講演『知っているようで知らない糖尿病～光る君へ～』も予定しています。

どなたでも参加でき、料金は無料。予約、定員ともになし。

「敬老の日」を各ユニットで祝賀
（詳細は三、四面に掲載）

九月十六日「敬老の日」を迎えるにあたり、各ユニットではそれぞれの工夫で祝賀行事を行ないました。

一号館ＡＳユニットでは居酒屋風の模擬店を設け、カラオケ大会を開催。同ＢＣユニットでは手作りの写真付きカードを贈呈。また二号館Ｄユニットでは全員にフラワーボックスをプレゼントし、皆様に喜んで頂きました。またＥＦユニットにおいては、ケーキを食べながらウクレレ演奏による歌カフェを。三号館ＧＳユニットではカラオケ大会と共に、職員お手製の巾着袋を贈呈し祝賀。ＨＩユニットでは祝賀記念にと、昔なつかしい「駄菓子屋」の模擬店を出して、皆様に喜んで頂きました。

『居酒屋』で祝賀

ＡＳユニットでは「敬老の日」を祝う記念行事として『カラオケ居酒屋』なるイベントを行いました。

このネーミング何かというと、どこか懐かしい「居酒屋」の模擬店を設置し、その中で「カラオケ」を楽しんで頂こうという趣向から取ったもの。「居酒屋」は以前他のユニットで行った行事をちょっと真似したもの？それはそれとして、ユニットスタッフ一同の熱い思いのままに記念イベントの準備に入りました。

カラオケはプロジェクターによる画面を設置。事前にお一人お一人からお好きな曲を聞き取り、歌詞カードを作成。当日までの間、練習する利用者様の声がユニット内に響き渡っていました。

迎えた当日、ノンアルを始め多くの飲み物の他、焼き鳥や枝豆などのつまみが表示されたメニュー表が配られ、居酒屋が開店。

早速、マイクを握った栗原様は「男の人生」（杉良太郎）を披露し、実感のこもった歌声に皆さんのハートを鷲掴みにしました。その他、皆様それぞれの持ち歌やお好きな歌を元気に歌い、大声援を受けていました。

喉が渇いた後は、静かな「居酒屋」に戻り、それぞれメニュー表を見ながらオーダーし、ノンアルビールやジュース、そしてつまみを肴にしばしの歓談。残暑の中、冷たいビール（ノンアル）は格別であったのか、田口様などは最高の笑顔を見せていました。

また、この日の最後には、皆様に敬老の日を記念した写真入り手作りカードをお配りしました。

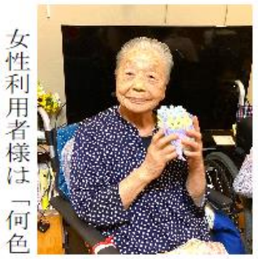
（Ａ・Ｓユニット　Ｕ）

「手作り巾着袋を贈呈」

敬老の日を記念したＧＳユニットの敬老会イベントでは、今年はカラオケ大会を行い、皆様の健康長寿をお祝いしました。

始めに「どんぐりころころ」「紅葉」などの童謡を皆さんと一緒に歌ったあと、懐かしの演歌を後閑淑子様が美空ひばりの大ヒット曲「川の流れのように」を披露。そして、高嶋秀夫様が天童よしみのこれもまた大ヒットした名曲「珍島（ちんど）物語」を歌うと、皆様から盛んな拍手を受けていました。『叶えられない悲しい恋や、人生の機微を歌ったこれらの曲は若い職員さんには少し難しいかもね』と思われたかもしれませんね。

カラオケ大会の後は、手作りのメッセージカードと、かぎ編みが得意な坂井職員製作の巾着袋を記念プレゼント。皆様にはお好きな色の巾着袋を選んで頂きました。



女性利用者様は「何色にしようかな？悩んじゃうな」と少々興奮ぎみ。お好きな巾着袋を手に取り「何を入れようかな？」と大変喜ばれていましたが、その後、それぞれお手持ちの軟膏や眼鏡を収納したり、テレビのリモコンなど入れて利用されているようです。

（Ｇ・Ｓユニット　Ｙ）

「敬意と感謝を込めて」

二号館Ｄユニットでは、敬老の日を祝賀するため「敬老会」を行いました。

今年の敬老会では、皆様の社会貢献に尽くされた事への敬意と日頃の感謝を込めてメッセージカードを作成し、お一人お一人にお渡ししました。

又、Ｄユニットでは今年度、米寿（村上繁康様）及び白寿（浅賀ヤスノ様、湯口松枝様）をめでたく迎えられた方がおられ、長寿の記念としてお祝いのカラーを使用した手作りのフラワーボックスをプレゼントしました。

「まあ、すてき！これ作ったの？」とびっくりされ、「こんないい物を頂いて、ありがとね」と大変に喜ばれていました。

最後に皆様がこれからも健康長寿で日々楽しく生活されますようにと、記念のカメラに収まりました。

（Ｄユニット　Ａ）

「祝賀を歌に託して」

敬老の日の九月十六日の当日、ＥＦユニットでは敬老会を行い、皆様の健康長寿を祝いました。

最初にお一人お一人に敬老の記念プレゼントをお渡ししました。皆様大変喜んで下さり、木村マサノ様は早速袋を開け、プレゼントのひざ掛けを見ると「まあ、こんなステキなものを頂き、ありがとう」と喜んでおられました。

またこの日のお祝いのデザートとして、生クリームとチョコレートの二種類のケーキを用意。食べられない方には、プリンを。生クリームには砂糖菓子がついており、杉山様は「まあ、虎ちゃんがいるわ」とお口に含みましたが、固くて食べられず、残念がっていました。

この後、ＥＦユニットお馴染みのウクレレ演奏で、長く社会の中で貢献されて来られた皆様への敬意を込めて「人生の並木路」などを皆様とともに歌いました。

この日はまた、九月生まれの杉山様、原様の誕生日会も行いプレゼントをお渡ししました。

（Ｅ・Ｆユニット　Ｎ）

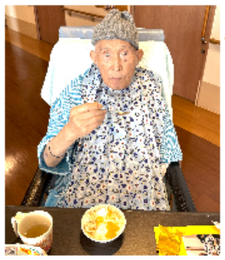
「長寿祝賀カード贈呈」

ＢＣユニットの「敬老の日」記念イベントは、八月、九月の合同誕生日会を兼ねて行いました。

この日は、敬老の日のお祝いとして長寿のカードと、皆様全員に写真付きカードをプレゼントさせて頂きました。

職員が手作りによるカードをお渡しすると、宮下公一様は腕を大きく振り、声を絞って「ありがとう、ありがとう」と喜ばれていました。

また八月生まれの反町ナヲ江様、井上操様、九月生まれの内藤秋男様、宮下公一様の誕生日のお祝いとして、それぞれプレゼントに添えて皆様と一緒に歌を贈りました。



反町様は白寿とお誕生日のお祝いが重なり「こんなにも、ありがとう！」と涙ぐんでおられ、内藤秋男様はプレゼントしたキャップを早速愛用して下さり、選んだ職員を喜ばせていました。

この日のおやつは、ヨーグルトにフルーツをたっぷり添えて、ハチミツを加えた手作りパフェで、皆様一様に「おいしい！」と喜んで召しあがっておられました。

（Ｂ・Ｃユニット　Ｉ）

「昭和の駄菓子で祝福」

ＨＩユニットでは「敬老の日」に、記念イベントを行い、皆様の健康と長寿をお祝いしました。

今回は利用者様の希望と職員のアイデアで、皆様の遠い幼少時代に馴染んだ「駄菓子屋さん」を模擬出店して、昭和の駄菓子を存分に楽しんで頂きました。

駄菓子はおなじみの金平糖をはじめ、麩菓子、綿菓子、お絵かき煎餅など十種類ほどの懐かしい物ばかり。

「駄菓子屋さん」において一人お一人お連れし、それぞれお好きなお菓子を選んでリビングに持ち帰り召し上がって頂く手法をとりました。隣の方と「何を選んだの？」「それは何？」「なつかしいねー」などの言葉があちこちで交わされました。皆、幼少時代に戻ったかのような嬉しさにあふれた笑顔でした。

この後、職員から長寿をお祝いするメッセージカードを皆様にお渡しすると、「うれしいよ！ありがとうございます」と涙ぐむ方も。

利用者様と職員との総意で行った今回の敬老イベント。皆様の健康長寿をお祝いするとともに、思い出を刻む行事となりました。

（Ｈ・Ｉユニット　Ｈ）

委員の一言メモ

★酷暑に耐えられずお休みしていたウォーキング。再開すると曼殊沙華が見頃でした（由）★ショッピングに出かけるとハロウィンの飾りがたくさん。かわいいものが多く、つい足が止まってしまいます（理）★やっと朝晩涼しくなってきました。暑い時期が長かった分、秋が足早に過ぎ去りそうですね（彩）★さつま芋の美味しい季節。お芋のデザートや飲み物の情報を日々チェックすることが最近の日課です（沙）★うだるような夏でしたが、私にとっては充実した楽しい夏でした（山）★天候不良のため果物、野菜が小ぶりで高値。好きなお米の銘柄も店頭になく、少し寂しい食欲の秋（芳）★恒例の作品展。秋をテーマに思い思いに制作中。完成が楽しみです（美）★高崎音楽祭オープニングコンサートに。期間中ジャズ、クラシックあり。少し気取った芸術の秋（井）